校長室だより～燦燦～ №１８

入試が変わることは学校が変わることだ

2019.12.4

「入試が変わることは学校が変わることだ」これは私の言葉ではない。本宮高校の黒川校長先生の言葉である。先日、県北地区の中学校の校長先生方を前にして、高校の校長先生方が新しい高校入試、特に「特色選抜」について説明会を開いた際の言葉である。私はなるほどと思った。確かに本宮高校の説明を聞いていると、かなり特色を打ち出してきていた。

改めて梁川高校の特色選抜について考えてみた。「志願してほしい生徒像」は次のようになっている。

（１）明確な進路目標を持ち、その目標の実現に向けて地道な努力を継続できる者

（２）部活動・生徒会活動やクラス活動などで主体的に活動できる者

（３）基本的生活習慣が確立しており、率先して規律を守り、良識ある行動がとれる者

この３つを読んでも、どこに特色が出ているかわからないことと思う。すべて当たり前のことである。中学校の先生方からすると、普段から指導してきている生徒像であると思う。何も特別なことはない。高いものも求めてはいない。

中学校の校長先生方を前に、私は説明の中で次のように話した。

「キーワードで言いますと、目標と地道な努力、主体的な活動、基本的生活習慣と規律となります。最も大切なキーワードは、目標と基本的生活習慣です」

物事は絞ったほうがわかりやすい。「目標」と「基本的生活習慣」は、本校の生命線である。今、本校に通ってきている生徒の多くは（１）（２）（３）に合致した生徒である。特に（１）は際立っている。地道な努力をしようにも目標がなければ継続はむずかしい。目標があり基本的生活習慣さえクリアできていれば何とかなる。いや何とかするのが梁川高校である。

今年度から新しい高校入試になるが、梁川高校の場合は、「入試が変わっても学校は変わらない」ということになる。以前もこれからも、まじめに毎日学校に通い、しっかりと目標をもって頑張り続けることができる生徒にきてほしいと考えている。そして、３年間努力した結果が、就職や進学となって実を結ぶ。梁川高校は、そういった学校である。いや、それが本校の使命である。本校の存在意義である。

確かに、今回の入試改革は、学校が変わる大きなチャンスだったのかもしれない。しかし、本校には長らく地域社会において果たしてきた役割がある。それは学校の誇りでもある。１００年の歴史が積み重ねてきた実績でもある。本校は、来たるべき１０１年目も変わらない。あくまでも地域社会と共に歩む道を選んだ。

校長としては、何人の中学３年生が受験してくれて、入学式には何人の新入生がいることになるのか。これを気にしないわけではない。しかし、何人であろうが、本校の入学生は地域社会の大事な宝である。大切に育てていかなければならない。来年度の入学生は、福島県立梁川高等学校最後の卒業生となる生徒たちである。ぜひ栄光の３年間を歩んでほしいと願う。